

# 「進路指導」を題材とした普通教科「情報A」のカリキュラム開発

## Curriculum Development of High School "Information Study A" by using Career Guidance

社会情報システム学講座 0312000060 小関啓子

指導教員 鈴木克明 藤原康宏 市川尚

### 1. はじめに

平成15年度より高等学校に教科「情報」が新設された。必修教科であるが、大学入学試験等で「情報」が扱われないため、特に進学校の場合「情報」の時間を大学入学試験で扱われる他の教科に充てたいという話を聞く。また、高校時代にはそれまで曖昧だった自分の職業観が発達し、現実的に将来を考え出す時期でもあるので<sup>[1]</sup>、進路指導も重要であり、どの高等学校でも独自の指導が行われている。

進学や就職に必要な情報を収集する等の進路学習の過程を、情報科の題材とすれば、双方を同時に学べるのではないかと考えた。これにより、「情報」の導入に躊躇している学校でも「情報」の時間を確保できると考えた。本研究では、「情報」の授業に進路学習を盛り込んだカリキュラム開発を行うことを目的とした。

### 2. 普通教科「情報」と進路学習の現状

#### 2.1. 普通教科「情報」の現状

高等学校普通教科「情報」は平成15年度入学生から必修となっている。3年間のうちに「情報A」、「情報B」、「情報C」の中から1科目を選択して受講する。標準単位数は2単位である。授業時間のうち、「情報A」では2分の1以上実習を盛り込むことになっている。

必修科目となり実際に授業が始まってはいるものの、カリキュラムや実践例が少ない。また、「情報」の授業を担当する教員の多くは他の教科も受け持っていることがある。

#### 2.2. 高等学校の進路学習の現状

高等学校の進路学習で何をやるか、学習指導要領では、はっきりとした記述がない。各高等学校で、独自の工夫を凝らしながら進めることになる。

現在の学校教育における進路指導には、次の4つの要点が挙げられる<sup>[1]</sup>。(1)進路を考えることは主体的な行為で自分の生き方は自分自身が考える、(2)進路を考えるうえで自分自身の姿を明らかにし自己理解を深める必要がある、(3)自分が将来を生きる場としての進路の世界を理解する必要がある、(4)将来の人生において社会的・職業的活動を通して自己実現を目指すことである。

#### 2.3. 「情報」における進路学習の事例

「情報」における進路学習の事例としては、いくつかの案が提供されており<sup>[2][3]</sup>、「情報」の中で進路学習を行うことは可能であると考えられる。しかしこれらは「情報A」の学習の一環として取り組むには十分であるが、

「情報A」の目標をすべて満たした提案ではない。

### 3. 進路学習を題材とした「情報」のカリキュラム開発

#### 3.1. 想定する学習者・設備

学習者は、高等学校第1学年の40名程度のクラス単位で、教員が1名で指導する状況を想定した。1年間を通して2単位(50分授業を70時間)、学期の構成は4期制(1年間に4回の評価)とした。生徒一人につき1台のコンピュータを使え、プロジェクタやプリンタを利用することができる環境を想定した。教科書は、日本文教出版の「情報A」の教科書<sup>[2]</sup>を用いる場合とした。

#### 3.2. 「情報A」の目標と内容

「情報A」の目標は高等学校学習指導要領に定めるとおりとした。特に語句や一般的なコンピュータの操作方法などの言語情報は教科書に沿って指導する。実習では、進路学習に関わる内容を取り入れるものとした。

#### 3.3. 進路学習の目標と内容

進路指導の4つの要点を高等学校の3年間で達成することと考え、第1学年での進路学習の目標を、宮崎ら<sup>[4]</sup>の年間指導計画を基に次の2つにまとめた。①自分を知る。②いろいろな生き方や職業を知る。①では、生徒が自分自身を知り、興味・関心のあるものを自身でより深める。②では、自分の興味がある職業や就きたい職業だけでなく、社会の中の様々な職業について扱う。

#### 3.4. カリキュラムの開発

本研究では、進路学習を題材とした「情報A」のカリキュラムの開発として、1年間で授業をする70時間分の学習指導案と授業の際に用いる教材などを作成し、教員は本研究の成果を用いてすぐに授業ができるようにすることを目指した。授業では、生徒が「情報」の授業に興味を示し、役に立ちそうだ、自分にとって必要だと感じ、また、進路学習を自分の問題と考え取り組むことができるように実習の内容や課題を工夫した。

##### 3.4.1. 年間指導計画(案)の作成

はじめに、年間指導計画(案)を表1に示す。生徒の評価の基準の一つとして、1年を通して毎時間ワークシートを用意し、生徒は実習、講義でワークシートに記入して提出する設定とした。また、学期末に用語や知識などを問う考査を取り入れることとした。

##### 3.4.2. 単元指導計画の作成

年間指導計画を基に、単元指導計画を作成した。たとえば、単元1:自分史から始める「情報」(計2時間)では、第1時で自分史の作成を通して、生徒自身が過去を振り返り将来を考え(進路学習)、また、表現の方法な

ど(情報)を学ぶ。第1時で自分史を作成することで、単に授業のガイダンスや説明等の単調なものにならないように工夫した。第2時以降でも自分史を用い、関連付けて、生徒が意欲を持って授業を受けることが出来るようにした。

### 3.4.3. 学習指導案と教材の作成

単元指導計画を基に、各時間の学習指導案とワークシートなどの教材を作成した。第1期分17時間相当についての学習指導案と教材を作成し、これをプロトタイプとして評価を行った。

## 4. 形成的評価

カリキュラム開発終了後に、「情報A」と進路学習の学習内容や用意する教材について、情報科と進路指導担当教員を対象とした形成的評価を行った。趣旨説明のあとプロトタイプをそれぞれの専門から検討してもらうように依頼し、自由記述方式でコメントを集約した。

## 5. おわりに

本研究では、進路学習を題材とした普通教科「情報」のカリキュラムの開発を試みた。プロトタイプの形成的評価では様々な指摘がなされたが、進路学習を題材に1年を通して「情報A」の授業を進めていく可能性があることが示唆された。プロトタイプへのコメントをもとにして、残りの3期分を準備していきたい。

## 参考文献

- [1]高橋超・石井眞治・熊谷信順編著『生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房、2002、p136～137
- [2]水越敏行・村井純編『情報A』日本文教出版、2002
- [3]佐々木秀樹『IT・Literacy プラクティス「情報科」進路学習編』日本文教出版、2002
- [4]宮崎猛編『高等学校進路で作る「総合的な学習」授業プランと実践』小学館、2002

表1 各学期の指導目標・内容・評価

学期 (時数)	情報A	進路学習
第1期 (17)	目標	問題解決・情報伝達の工夫ができる(学習指導要領(1)情報を活用するための工夫と情報機器)
	内容	1:自分史から始める「情報」(2) 2:情報伝達の工夫(6) 3:コンピュータによる情報処理(5) 4:Webページの作成(4)
	評価	ワークシート・学期末考査
第2期 (17)	目標	情報を検索・収集・発信・共有でき、それらの問題点を理解する(学習指導要領(2)情報の収集・発信と情報機器の活用)
	内容	5:問題解決の手法(4) 6:情報の扱い方(5) 7:わたしたちの暮らしと情報(4) 8:総合実習に取り組もう(4)
	評価	ワークシート・学期末考査
第3期 (18)	目標	コンピュータによって情報を統合的に処理できる(学習指導要領(3)情報の統合的な処理とコンピュータの活用)
	内容	8:総合実習に取り組もう(18)
	評価	総合実習の作品・ワークシート・学期末考査
第4期 (18)	目標	情報機器の仕組みやその発達を知り、情報社会へ参加する態度を養う(学習指導要領(4)情報機器の発達と生活の変化)
	内容	8:総合実習に取り組もう(5) 9:情報を読み解こう(12) 10:1年を振り返って(1)
	評価	ワークシート・学期末考査

※ 内容の先頭の数字は単元を表す。内容の()内の数字は授業時間数を表す

